

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年12月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4079600294
法人名	有限会社 エイブル
事業所名	グループホーム 秋桜
所在地 (電話番号)	田川郡川崎町大字田原248-32 (電話) 0947-72-3506
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年9月8日

## 【情報提供票より】(平成19年7月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	12人
利用定員数計	9 人
常勤	6人, 非常勤 6人, 常勤換算 9人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費	有	
敷金	有( 円)	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要(平成19年7月31日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.7 歳	最低 69 歳	最高 95 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中内科医院、一本松病院、川崎町立病院、沖歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者は社会福祉協議会のヘルパーとして2年6カ月勤務した。当初は認知症の利用者は精神科に入院するしかないと思っていたが、実母の介護からグループホームを知りやりたい気持ちになった。町づくり委員会に入り人的協力を得てグループホームを開設した。高台の静かな団地の一角にホームはある。利用者の健康を考えて天然木で建築されたホームで色鮮やかなコスモスがホームの各所に飾られている。また代表者は認知症指導者研修を受講しており、認知症の介護については専門的な知識を持って認知症の広報啓発、職員の教育・指導にあっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点については、積極的に取り組みを行っている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は評価の意義や目的を理解している。自己評価及び外部評価については職員と話し合いをして今回の自己評価を作成している。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、グループホームの理解が得られるように説明を行い意見をもらうようにしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	毎月「秋桜便り」を発行してホームでの生活状況を家族に報告をしている。家族来訪時にも個別に話し合い報告をしている。家族会が年1回の一泊旅行前に開催され、遠方に住む家族の参加も得て話し合いが行われている。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは高台の団地近くの住宅地に建設されたのだが、周りは居住者がなく空き地の状態である。町内会や老人会を作ることができない。町の福祉祭りや農協のイベントには参加している。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的で雰囲気ある生活、地域住民としての生活を提供する理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は毎月のミーティング、朝の申し送り、ケアの中で理念を基に指導し、職員との共有ができています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームが造成団地の一角にあるものの隣近所に住宅がなく少し離れたところに地域の人が住んでいる。町の福祉祭りや農協のイベントには参加している。	○	町や農協のイベントだけでなく、団地が主催する行事などへ参加して地域と交流を図ることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価については職員と話し合いをして、今回の外部評価を作成している。ホームの啓発や広報に対しては、管理者の講演活動を通して認知症の理解が得られるように取り組みをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、家族の代表者の参加のもと市町村担当者・自治会長と、地域との連携などの話し合いができています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村窓口担当者に認知症の理解を深めてもらうために、ホームの現状を伝え地域包括支援センターとの連携を取っている。より一層の関係作りに市町村職員に研修会場としてホームを活用するよう話している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護や成年後見制度について家族会などで資料を渡し説明をしている。職員に対しては内部研修で説明をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	秋桜便りを毎月月初めに発行して写真などを添えて家族へ報告をしている。金銭に関してはホームでの預かり金はなく、ホームが立替払いをして清算をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、利用者・家族・職員と一緒に一泊旅行を実施している。遠方に住む家族の参加もあり、出発前に家族会を開催し、意見などを聞いている。日頃は近郊の家族が利用の支払いや面会に来訪した時に個別に意見を聞いて運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後数人の職員が退職をしたが、引継ぎの期間を十分に取って利用者の動揺がないように努めている。急に退職する職員の場合は管理者が引き継ぎ、十分な配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は経歴を見て判断をしており、年齢・性別に関係なく採用している。採用時は半日ホームで過ごしてもらいホームで働く適任者か否か職員と相談して決定している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月のミーティング時に管理者が人権教育をしている。日常の介護の場面でも、その都度指導をしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に職員のレベルに合わせて参加をすすめている。全て研修内容を習得することは難しいが、一つでも持ち帰れるように話しをして参加をさせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会などの交流があり、研修参加を通して交流をしている。他のホームで働く仲間との会食の中で新たな気づきをすることがあり、ホームでの介護に活かしている。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に面会しホームの説明後、体験入居としてホームで利用者と一緒に時間を過ごしていただいたり、泊まり体験をしてもらったりしている。家族の泊まりもできて同じようにホームでの生活を見ていただいている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者との会話に、傾聴する姿勢をとり、畑仕事や調理方法など教えてもらい良い関係を築いている。</p>		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に本人や家族に思いを聞いてアセスメントシートを作成し、その後は日々の生活の中で新しく得た情報を業務日誌に書くことで思いや意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎朝の申し送りや介護日誌から状況の変化をみて、職員と一緒に立案されたものを家族から了解を得ている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月の月例会議で利用者の介護計画の見直しをしている。見直し後は家族に説明を行って了解を得ている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今年6月より共用型デイサービスを開始している。一人の利用者が週4回ほど利用をはじめ、家族共に喜んでもらっている。通院の送迎をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を確保し日頃から連絡をとり合い、電話での相談もできる体制が整っている。通院は職員が同行し適切な治療が受けられるように支援をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について説明し確認書をとっている。ホームとしては本人・家族の希望に添うように協力医療機関との連携をとり体制づくりをしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導ではさりげなく個々に声掛けができていた。記録等は事務所にて保管し、プライバシー保護に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者の指導のもと、「職員の流れて仕事をしない」「ちょっと待つては言わない」「慌てさせない」をモットーに食事時間もせかすことなくことなく利用者のペースに合わせて支援をしている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した食材や、いただき物の食材があると当日メニューの変更をてして調理にあたる。入所者の能力に応じた準備や片づけが職員の声掛けなしでできていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯に制限なく、利用者の希望を聞き入れ支援をしている。夜間帯も汚染状況にあわせ、シャワー浴などで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽療法を外部の先生にお願いしており、利用者は楽しみにしている。先生の荷物運びを喜んでする人がいる。お絞たたみ、畑仕事、調理の下準備等、利用者の持てる力や役割ごとを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者によっては暑いので外に出たくないと言うことがあるが、涼しい時間に誘い、体調にあわせ買物や散歩の支援をしている。花見やりんご狩りなど季節行事の計画も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を職員は理解しており、日中施錠なしで生活をしている。玄関入り口は炊事場・事務所・ホールから見渡せる範囲で終始職員が気配りをしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に対し独自のマニュアル作成している。消防非難通報訓練・夜間対応避難訓練を実施している。災害時は隣接団地の区長の協力も得られるように連携をとっている。災害時の非常食用食料は台所に準備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量は摂取量を記録して職員間で共有している。咀嚼にあわせ食事の形態をかえて対応している。職員は病院受診同行時に栄養士の専門的指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの名前にちなんで、色とりどりのすばらしいコスモスの造花が壁のいたるところに飾られている。ホーム全体が天然木で建設され、一人を除いて全員素足で生活しているほど安らく空間である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれの居室に使い慣れた筆筒や置物が持ち込まれ、自分の部屋として気持ちよく過ごせるようにしている。</p>		